

## 再評価結果（平成30年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：村山 一弥

事業名 一般国道4号 <small>つきだて</small> 築館バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点 自：宮城県栗原市築館赤坂 <small>くりはら つきだてあかさか</small> 至：宮城県栗原市築館城生野 <small>くりはら つきだてじょうの</small>			延長	7.0 km
事業概要 一般国道4号は、東京都中央区から青森市までの福島市、仙台市、盛岡市等の東北地方の主要都市を結ぶ、延長約87.4kmの主要幹線道路である。 築館バイパスは、宮城県栗原市内を通過する延長7.0kmの4車線道路である。				
S58年度事業化	H56年度都市計画決定 (H23年度変更)	H7年度用地着手	H13年度工事着手	
全体事業費：約180億円		事業進捗率	52%	供用済延長：3.8 km
計画交通量：14,600台/日				
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.3 (残事業) 1.7	総費用： (残事業)/(事業全体) 80億円/237億円 (事業費：66億円/205億円) (維持管理費：14億円/33億円)	総便益： (残事業)/(事業全体) 134億円/315億円 (走行時間短縮便益：101億円/255億円) (走行経費減少便益：24億円/45億円) (交通事故減少便益：9.9億円/15億円)	基準年： 平成29年
感度分析の結果：残事業について感度分析を実施 【全体事業】交通量変動：B/C=1.2~1.5(交通量±10%) 【残事業】B/C=1.5~1.8(交通量±10%) 事業費変動：B/C=1.3~1.4(事業費±10%) B/C=1.5~1.8(事業費±10%) 事業期間変動：B/C=1.2~1.4(事業期間±20%) B/C=1.6~1.8(事業期間±20%)				
事業の効果等 ①円滑なモビリティの確保 ・当該区間の渋滞損失時間：51.6万人・時間/年、渋滞損失削減率：約9割削減 ②安全で安心できるくらしの確保 ・栗原市（金成地区）から大崎市民病院（大崎市）へのアクセス性が向上（現況53分→整備後49分） ③災害への備え ・宮城県緊急輸送道路ネットワーク計画において、国道4号が「第一次緊急輸送道路」に指定 他4項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見 ○宮城県知事の意見 ・「対応方針（原案）」の通り「継続」で異議ありません。 ○以下の団体等から、「築館バイパス」整備促進について要望あり。 ・宮城県栗原市 ・一般国道4号築館バイパス整備促進期成同盟会 ・国道4号拡幅改良（4車線）建設促進期成同盟会 他				
事業評価監視委員会の意見 対応方針（原案）どおり「事業継続」が妥当である				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 ・平成19年12月 築館バイパス部分開通 延長1.8 km ・平成25年3月 築館バイパス部分開通 延長1.3 km ・平成25年度 みやぎ県北高速幹線道路Ⅳ期事業化 延長約2.0 km ・平成27年12月 築館バイパス部分開通 延長0.7 km ・平成28年度 一般国道4号大衡道路事業化 延長4.5 km ・平成29年度 一般国道4号金ヶ崎拡幅事業化 延長5.2 km				
事業の進捗状況、残事業の内容等 ・昭和58年度に事業化、用地進捗率71%、事業進捗率52%（平成29年3月末時点） ・平成19年度：栗原市築館外南沢～栗原市築館源光間 延長1.8 km (2/4) 部分開通 ・平成24年度：栗原市築館源光～栗原市志波姫堀口滝北間 延長1.3 km (2/4) 部分開通 ・平成27年度：栗原市志波姫堀口滝北～栗原市志波姫堀口沖間 延長0.7 km (2/4) 部分開通				

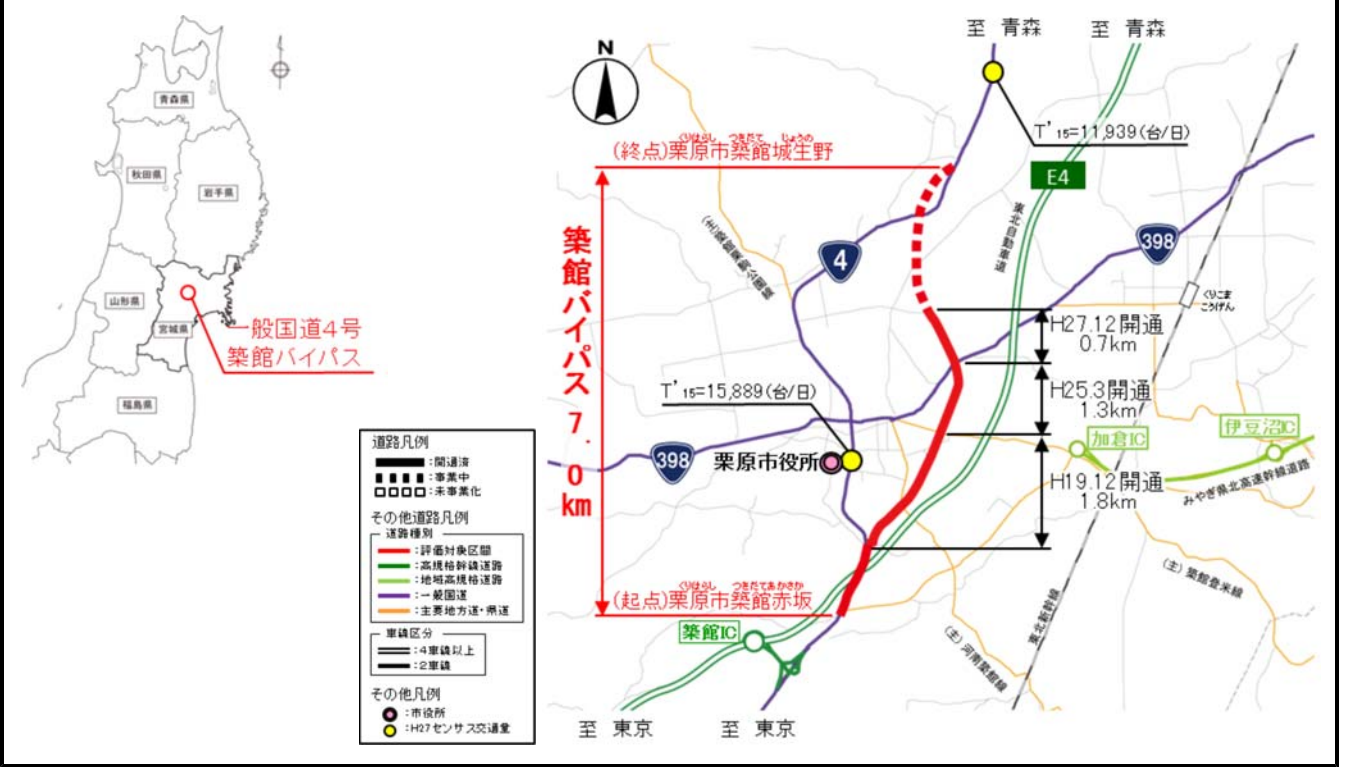
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等  
 ・市道栗原中央線～栗原市城生野地内の国道4号迄の区間は完成に向けた円滑な事業実施環境が整った段階で確定予定

施設の構造や工法の変更等  
 ○下層路盤材に再生骨材を使用することでコスト縮減を図っている

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由  
 国道4号における交通混雑の緩和、交通安全確保等のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。